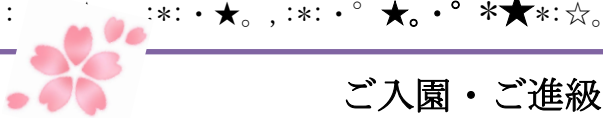




みらいつうしん

4月号

令和6年4月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



ご入園・ご進級おめでとうございます。

園庭の桜も満開になり、子ども達に「ようこそみらいこども園へ」「楽しいこと見つけて、たくさん遊ぼうね」と笑顔で話しかけてくれています。ご入園・ご進級まことにおめでとうございます。

いよいよ、令和6年度がスタートいたしました。本年度は、47名の新入園児を迎え、総数194名の園児達がみらいこども園で、乳幼児期の生活を送ります。元気いっぱいな子ども達と一緒に過ごせることをとても嬉しく思います。引き続き、本園の理念である「みらいこども園は、子どもも大人も一人一人が尊重され生きる喜びがもてる場所です」を基本として、園児が、「遊び」を通して好きなことを見つけ、主体性をもって園生活を送れるよう努めて参ります。また、友達を思いやり尊重しながら個々の資質や能力を育んでいけるよう職員一丸となって環境を整えて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、やっと、コロナウイルス感染が落ち着き、行動制限ない生活に戻り、世の中も活気が出てまいりました。こども園も、より人とのつながりを大切に考え、「力強く生き抜く力」「生涯にわたる人格形成の基礎」を培うために努力して参ります。まずは、園児同士、園児と職員、保護者様と職員のコミュニケーションを執る第一歩として、今年度も、『挨拶』を大切にしていきます。挨拶は、相手の存在を認めて関係性を深めるきっかけになります。子ども達が、毎日の生活の中でたくさんの友達に出会い、人との関わりの一部として、『挨拶』を習慣として根付かせて行きたいと思えます。朝、特に、「おはよう」「ありがとう」「いただきます」「さようなら」の言葉は、これからの人生においてとても大切な言葉だと思えますので、丁寧に伝えていきたいと思えます。どうぞ、保護者の皆様も笑顔で挨拶をしていただき、子どもの良いお手本となってください。職員も保護者の方にお声をたくさんおかけし円滑な関係性を築いていけるよう努力いたします。また、4月は新しい生活の始まりですので、子ども達は、ドキドキ感とワクワク感を交差しながら、緊張や不安でいっぱいです。一生懸命新しい環境に足を踏み出し、孤軍奮闘していますので、園から帰ってきたら、お子様をぎゅっと抱きしめ、「頑張ったね。」と声をかけてあげてください。これが、親子の絆を深く結び付け、愛着形成に繋がります。愛しい子ども達と過ごす時間を大切に、子育てをしていきましょう。みらいこども園が、子ども達の大好きな場所となり、保護者の皆様も安心して預けられる施設となるよう職員一同力を合わせて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。(勝浦)

2月に保護者の方や子ども達と一緒に植樹した木々や花々が芽吹きはじめました。小さな小さな成長に気づいては、子ども達と「見て見て！」と喜びを共感しあっています。四季折々の自然の変化の面白さを子ども達がどのように感じとっていくのか、今から楽しみです。新入・進級のお子さんや保護者の方にとっても園での新たな出会いが期待あふれるものとなりますよう努めて参りたいと思えます。

(中城真由美)

子ども達が桜の花びらを黙々と集めて、「いっぱい！」「ピンクかわいいでしょ！」と笑顔で見せ合っていました。生活の中で生まれる様々な感情を言葉や仕草、表情で伝えていることを大切に、私たちも一緒に感じていきたいと思えます。

(三ツ橋知子)

ほし組になったばかりの子が、こんもりと咲いているピオラに埋もれて隠れていたピンクの花を見つけ「これ、なんていうの？」と聞いてきました。冬を越し、やっと咲かせた小さな花をよくぞ見つけた！「シクラメンよ」と答えると「え～？ラーメン？」「！」あはは…と笑い合い、幸せな時間が流れました。子どもの発見や日々の風景を“あたりまえ”と思わずに大切にしていきたいと思えます。(柳鶴聡美)

